

研修No. 1 2

2022 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 2 月 28 日
研究・研修課題名	人工腎臓装置保守管理研修（メンテナンスライセンス取得）
研究・研修組織名（所属）	MEセンター
研究・研修責任者名（所属）	山本優葉
研究・研修実施者名（所属）	山本優葉 小笠原樹

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果（ ）
該当者名(所属)	山本優葉(MEセンター) 小笠原樹(MEセンター)
学会名(会期・場所)、認定名等	DBB-200Si 保守点検メンテナンスライセンス取得
演題名・認証交付元等	日機装株式会社
取得日・認定期間等	2022年7月28日
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**① 目的**

血液透析患者数の高齢化（全国平均年齢 71 歳）に伴い、合併症を有する透析困難症例が著しく増加している。合併症のうち、心・血管系あるいは脳血管系合併症を有する症例の透析療法に苦慮することも多く、救命センターから透析を要する患者も増加傾向にある。2021 年度の透析件数は、救命センター病棟で運用開始後、135 件であった。昨年度、集中治療部、血液浄化部に新型透析装置（DBB-200Si）を 8 台導入し、旧型含め計 13 台所有し高度な血液透析濾過に対応している。血液浄化装置は生体機能代行装置であり、装置の機能が正常状態を維持できない場合は、生命を脅かす事態へ直結する。また COVID19 において、異なるウイルスに罹患した透析患者に対して、同装置を使用できないため、受け入れ患者が増加した場合、装置の設置変更や消毒、メンテナンスを速やかに行う必要も生じる。血液浄化治療部、C 病棟での透析を安全運用するためには、装置の保守点検が必須となり、装置を構成する部品の動作原理や構造の知識習得が必要である。因みに現在 DBB-200Si 装置のメンテナンスライセンスを所有し業務に携わるスタッフは 2 名しかおらず、保守点検に関する人工腎臓装置保守管理研修をWEB受講、実施研修を行い、メンテナンスライセンスを取得する。

② 方法

2022 年度に開催される人工腎臓装置保守管理研修に参加する。

② 成果

e-ラーニングにて装置の構造や消毒方法などの基礎的な知識を習得することが出来た。また、M.ReT 宮崎にて実技研修を 2 日間行った。DBB-200Si と DCS-200Si の様々な部品のオーバーホールを学び、保守点検方法を研修しメンテナンスライセンス取得した。ライセンス取得により、血液浄化部・C 病棟で使用する DBB-200Si (人工腎臓装置) の保守点検が可能となり、故障部品の交換やオーバーホールを臨床工学技士が行うことが可能となり、約 60 万程度のオーバーホール費用が削減でき、メーカーの人件費や出張費を抑えることが出来ると考えられる。来年度よりオーバーホールを行う事の出来るスタッフが増員したことでメンテナンスをより迅速にかつ安全に行なっていく。